

## [学会情報]

### 日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会 第14回研究集会に参加して

京都大学大学院 長谷 祐

日時：2015年12月13日（日）

場所：京都大学農学部総合館

大会プログラム

1. 江戸徹氏（社会福祉法人 AJU 自立の家常務理事）  
『小牧ワイナリー ～ 障がいのある人の自立を  
目指して ～』
2. 梅垣誠氏（梅垣ぶどう園）『風土とぶどう』
3. 奥田徹氏（山梨大学教授）『日本ワインコンクールの  
現状』
4. 佐伯菜美氏（京都大学大学院）『2015 年度 国際  
交流科目「南仏伝統産地のワインビジネス戦略」  
報告』

報告1 江戸徹氏（社会福祉法人 AJU 自立の家常務理事）

障がい者を雇用し、ブドウ栽培とワイン醸造を通じて就職に向けたトレーニングを行っている社会福祉法人「AJU 自立の家」による「小牧ワイナリー」の取り組みに関して報告がなされた。報告者である江戸氏の経験や AJU 自立の家の理念や機能、就労継続支援施設としてだけでなく地域社会・仲間との交流の場としての小牧ワイナリーの役割などが説明された。

小牧ワイナリーはまだ創立したところであり、障がいを抱える人々と、それを支える人々の協同の場としての役割に今後も期待がかかるワイナリーであると感じた。

報告2 梅垣誠氏（梅垣ぶどう園）

京都でブドウ園を営んでいる梅垣誠氏から、自社農園での栽培や育種に関して報告がなされた。梅垣氏は多くの品種を育てており、それらを交配させながら新しいタイプのブドウ品種の開発・栽培にも取り組んで

いる。今回は特に風土との関連で、京都の福知山という地域の気候とブドウ品種の関係などについての報告で、梅垣氏のブドウに対する鋭い観察眼と深い洞察を感じられる報告であった。

写真を多く使用した分かりやすい報告で、参加者からブドウの栽培について報告中に質問が出ても、その場で答えられており、双方向のやり取りが見られる報告となった。

報告3 奥田徹氏（山梨大学教授）

日本ワインコンクールの歴史や現状について報告がなされた。審査員の構成や審査方法、審査カテゴリーの変遷、エントリーするワイナリーの数やワインの本数の増加などについて報告がなされた。また、エントリーの増加に伴い、審査の質の維持に向けた取り組みやエントリー料の改定など、ワインコンクールの裏側の話も聞くことができ、時折、研究会参加者から笑い声の漏れる場面もあった。

いわゆる「日本ワイン」の質の向上や受賞ワインの傾向なども報告され、関西のワイナリー関係者が参加する本研究会にとっても有益な報告となった。

報告4 佐伯菜美氏（京都大学大学院）

2015年8月末～9月にかけて開催された、京都大学の国際交流科目の活動報告がなされた。南仏モンペリエでの実習は、SupAgro での講義、実験農場の見学、ワイナリーやワイン醸造組合の視察、特産物であるチーズの製造組合への視察、ツーリズム資源の探索など多岐にわたっていた。学生も農学部だけでなく、様々な学部から参加しており、それぞれの視点で実習に取り組んでいるようだった。